

豊前国宇佐郡元重村鑑帳

渡辺達也

豊前国宇佐郡元重村鑑帳

縦二七・五
横一九・〇
纏

(表紙)

明治二年

豊前国宇佐郡元重村は、現在大分県宇佐市に属し、大字上元重・下元重に分かれている。地理的には宇佐平野の南部に位置し、伊呂波川の中流域に沿つた農村である。東西には細長く丘陵性の山が南北に延び、その間に挟まれた平壠地は北部の宇佐平野へと続いている。

この地は近世初頭、中津を根拠地に豊前一帯を支配した黒田氏、次に細川氏、そして小笠原氏と領主も次々と替わるが、元禄十二年小笠原氏の分地により成立した時枝領へ編入後は、旗本小笠原氏の支配地として幕末まで続いた。また、明治元年には日田県に編入、同四年には大分県となつた。

ここに紹介する史料は、中世以来の土豪で、近世においては大庄屋・庄屋を勤めた元重氏の家に所蔵されていたもの。

明治二年元重村の庄屋が日田県四日市役所へ提出した村鑑帳で、江戸時代の村の概況を知ることができる。(宇佐市大字山下今永安雄氏所蔵)

豊前国宇佐郡元重村鑑帳

己巳三月日

豊前国宇佐郡元重村指出之事

一 細川越中守様御代ら小笠原信濃守様江御引渡其後小笠原民部様御代ニ相成相続仕元禄一二外年村鑑帳之形を以左ニ書出申候

一 高千式拾八石武斗四升七合八夕 荒高

内式拾五石九升九合五夕 新地高

内

七拾七石七斗七升七合

池成永引方

七拾三石四斗六升八合

田方

四石三斗九合

畠方

残而九百五拾石四斗七升壹合

田方先
反敵不知

四拾五石四斗五升壹合

畠方先
反敵不知

式拾式石六升四合

畠方先
反敵不知

是者村高之内二而御座候得共地面無之

御檢見之節御引被下候事

田畠屋敷合八拾三町四反式畠廿三步

内拾六町壹反六畠拾步半

分米式百七拾九石九斗五升九合三夕

是者延宝年中改出シ不足畠高ニ御座候

石盛壹石七斗六升八合七夕

分米九拾四石壹斗三升五夕

石盛壹石六斗八升八合式夕
上田四町式反壹畠拾七步

分米六拾九石九斗六合五夕

石盛壹石四斗三升式合四夕六才
中田拾三町八反拾三步半

分米百九拾七石七斗四升三合五夕

石盛壹石武斗壹升七合壹才

下田拾六町四反五畠式歩

分米式百石式斗六合

石盛九斗九升四夕三才

下々田拾町七反式畠式拾步半

分米百六石式斗四升式合

石盛九斗九合

新田九反九畠式拾九步半

分米九石八升八合五夕

田方合五拾壹町五反壹畠廿九步

分米六百七拾七石三斗壹升七合

但田方百步ニ付式拾九步式厘〇五八不足
畠高かぶりニ相成居申候

石盛壹石壹斗九升五合三夕

上々畠八反式畠廿八步

石盛壹石五升五合九夕

上畠三町九反四畠三步

分米四拾壹石六斗壹升三合

石盛七斗九升壹合壹夕八才
中畠七町三反三畠拾三步半

分米五拾八石式斗九合

石盛五斗式升六合五夕

下畠六町六反八畠壹步半

石盛三斗九升六合四夕九才

下々畠五町六反六畠式拾壹步

分米式拾式石四斗六升九合

右之毛附高本田烟ニ四ツ五歩式厘新田烟ニ式ツ六歩今免定
御取米當時上納仕来申候

屋敷畠式町壱反三歩

分米拾式石四斗三升壱合

右之毛附高本田烟ニ四ツ五歩式厘新田烟ニ式ツ六歩今免定
御取米當時上納仕来申候

一請藪米壱石壱斗七升八合 小物成

新烟五町三反式畠拾四步

分米拾六石壱升壱合

一反別大麦三石三斗六升七合 同

一同小麦式石七斗九升八合 同

一茶大麦四斗五升三合 同

分米式百五石六斗三升九合

但畠方百歩ニ付式拾四步○七四不足
畠高かよりニ相成居申候

是者先年茶園御座候而上納仕由ニ御座候得
共茶園無御座候ニ付村中弁ニ仕上納申候

一本取米之外延米口米夫米御座候 取米壱石ニ付延米式斗口

米六升夫米四升七合三夕三才宛之由先規^ル納來候處其後寬

文年中右延口夫米共ニ本途ニ入四ツ免之積リにて延高ト申ニ

籠成申候、年々檢見与申事無之春免ニ相極り自然風損日損

水損虫附ニテ格別不作之節者檢見を願免御引被下候儀も御

座候、新地者延口斗リ夫米無御座候御事

一威鉄炮式挺庄屋許江所持仕候、御運上者無御座候、往古者

獵師定免鐵炮御受仕御運上相納候事も御座候得共近來獵師

無御座候御事

一庄屋給米壱石三斗八升御地頭様毎年御年貢ニ御繼被下候

残而式拾四石九合三夕

式ツ六步
毛附高
池床山崩
高引

御事

一新地高式拾五石式斗七升六合五夕

新田烟
荒高

内 壱石式斗六升七合式夕

川欠砂入
毛附高

内 七拾七石五斗壱升五合

元重村
荒高

式拾四石三斗八升三合

川欠
高諸引
四ツ五歩式厘
毛附高

残高八百三拾三石四斗七升三合五夕

新田烟
荒高

一當時高式拾五石式斗七升六合五夕

新田烟
荒高

内 壱石式斗六升七合式夕

式ツ六步
毛附高
池床山崩
高引

一山ノ口式人給米式斗壱升三合御地頭様6毎年御年貢ニ御継
被下役目高拾五石御引被下候御事

一庄屋夫米御分地ニ相成候節6庄屋式人ニ壱石宛出米ニ而百
姓并高割ニ相成候御事

一肝煎式人御座候、給米者年尔与リ不同御座候
尤村中百姓出米ニ而弁来申候御事

一郷藏式軒御座候藏床分御年貢壱斗六升村中出米ニ而弁へ來
リ申候御事

一下々田壱反五畝拾六步高壱石五斗三升七合神田

是者當村氏神若八幡宮秋祭仕候ニ付右之物成村中相弁

申候而祭礼相勤候御事

一当村ニ組頭四人御座候、壱人ニ付高拾五石宛

申候答ニ取究置候御事

一先規6大庄屋之儀者上元重村相勤來り申候

凡八十年前天明年中6猿渡村ニ當時相勤申候、尤大庄屋山

之儀者元重村之内ニ御座候御事

一御分地ニ相成候節6庄屋兩人江引高五拾石宛四升役ニ志て

壱人前米式石宛村中高割ニ而出シ申候左候上者役目之処者
小前並ニ相勤申候

一川除石垣四ヶ所御座候、破損仕候得者郡役ニ而普請被仰
付候、尤少破之節者村役ニ而繕ひ申候節も御座候御事

一當村江井手壱ヶ所御座候、堰代米無御座候

是者先規6之井手床押堰難渋ニ付井手床上ケ溝費地御願
申上候處村弁烟成田6弁米致申候御事

一未村ニ兩村寄合持井手壱ヶ所井手床木之内村分ニ御座候、
堰代堰代無御座候、兩村ニて一日替り用水引來り申候御事

一鐘ヶ池壱ヶ所此池床未村之内ニ御座候、用水之儀未村元重
半分宛黒田如水様御代ニ出來申候、年數知連不申池成數引
方ハ無御座候、尤代地を出し築立申候由先規6池床為御年
貢米三合宛年々受取來り申候御事

一小倉池黑ヶ所ニ用三ヶ式
元重村
山下村

是者慶長十二年細川越中守様御代之節出來之池凡式百六拾
年余池床高百六石之内九石七斗八升五合此反九反壱石拾壱

步四日市村分池床ニ相成申候ニ付此壱高山下村江相渡残九
拾六石式斗壱升五合元重村分田地此内拾九石七斗五升式合

此反壱町五反七畝三歩山下村与里畝高受取申候、其外池成

リ起し返シ毛附ニ入申候、畝高差引仕只今元重村池成定高

七拾七石七升七合ニ相極リ申候、且水曳方之儀者元禄十四

巳年五月廿一日取究メ根付水元重村字便田横繩手右上ミ根

付水引廻シ夫右小池ニ而三ヶ武三ヶ壠分水以掌し中津領時

枝領兩大庄屋右證文元重村へ差入ニ相成候、猶又弘化二年

巳月取究メ為書替有之候御事

一用水掛樋壠ヶ所長式拾式間杉板さし樋ニ御座候、先年右内

田甫井手水不足之節此樋ニ而小倉池水内田甫ニ渡来リ申候、

右之樋損シ申節ハ御願申上候得者樋材木御地頭様右御繕被

成下候御事

一小倉池仕掛溝之儀明和九年辰二月出来渴水之節木ノ内村地

内ニ末村元重村相持井手右冬春右池ニ仕掛溝致未村費地御

年貢御地頭様右三ヶ武御引方池下元重村山下村右三ヶ壠弁

米仕申候、當巳年迄九十八年ニ相成申候御事

一袋山池壠ヶ所池成引方無御座候、尤池出来之年数知連不申

候

一袋山上ニ之池天明年中築立凡八十年余ニ相成申候、池築立

之砌右水引役元重村ニ相立元重田地山下田地水曳入方同様

之事、元重村右者池床御年貢米烟成田右弁納仕候、山下村

右者御年貢池守給夫役諸出ツ等三ヶ壠元重村江請取來申候

御事

一照山池壠ヶ所

是者文化七年御領中普請ニ而築立申候、當巳年迄四拾八年ニ相成申候、破損之節御願申上候得者郡役ニ而仕来申候

御事

一未村 相持奥ノ谷池壠ヶ所末村地内ニ御座候文久二壬戌年

築立申候、双方江為書替有之尤御年貢米式斗内壠斗元重村

弁烟成田右出米致申候御事

一諸池埋樋立樋損申節者材木御願申上候得者早速御地頭様右

御渡方ニ相成申候、土手破損之節者郡役ニ而普請被仰付候、

尤御扶持被下候更も御座候御事

一高七石壠斗四升四合式夕当村右未村田地出作仕候

一田畠土色きら土白いくし黒砂赤土ニテ御座候御事

一禪宗壠ヶ寺 下毛郡跡田村羅漢寺末

一京都花園妙心寺末 真應寺

一同 壺ヶ寺 光嚴寺

一同 壺ヶ寺 長州清水光林寺末

一真宗壠ヶ寺 奥禪寺

京都西本願寺末

宗林寺

一同 壱ヶ寺 宇佐郡四日市村真勝寺下 法音寺

是者已前ハ堂上ニ有之候得共天明八申年
寺号願取寺相成申候事

宇佐郡四日市村真勝寺下

阿弥陀寺

一同 壱ヶ寺 宇佐郡四日市村真勝寺下
是者已前ハ堂上ニ有之候得共文化十四丑年
寺号願取寺相成申候事

來覺寺

一同 壱ヶ寺 宇佐郡四日市村
是者已前ハ堂上ニ有之候得共文化十四丑年
寺号願取寺相成申候事

一若八幡宮 神主肥後
但境内高外ニテ御座候毎年神田米ヲ以十月
祭礼神樂仕候、六月祭礼之儀ハ村中より出ツ米
ニ而神樂ホ相勤申候御事

一山王宮 神主肥後

是者宮地山ニ御座候十月祭礼之儀者高割ニテ
岩戸神樂米四斗出シ相勤申候

一貴船大明神宮 神主同人

但境内高外ニテ御座候夏秋牛馬祈禱村中
小前々々ニテ祭仕候

一福權現宮

是者宮地秀穎裏ニ御座候、毎年同人六御供備申候
一地藏堂六ヶ所

但已前者四ヶ所社書上ニ有之候得共當時ニ而ハ六ヶ所
ニ御座候、破損之節者材木御願申上候夏茂御座候

一当村專一山与申ニ往古小倉山專市場ト申寺御座候処天正十
一年ニ豈後より惡黨之もの來り堂不残焼申候由ニ御座候、當
巳年迄凡武百八拾年余ニ相成候御事

一真應寺觀音山壹ヶ所

是者寛文二年寺山ニ相成候、伐取之節者御地頭様ニ御願申
上猶又村中江も相談之上取斗候事

一光嚴寺觀音山壹ヶ所

是者先年寺山尔て御座候故下刈枝葉寺より自由仕来り申候、
證文亦者無御座候、村中より一切かまひ無御座候御事

一高間安小松山壹ヶ所

是者村中飛別寄合山ニ御座候御事

一能藝山壹ヶ所

是者常助屋敷ニ右之内五畝歩御願申上同人与リ五畝歩丈御
運上相納申候、残リ分者飛別村中寄合山ニ御座候

一橋熊山壺ヶ所

是者文久三亥年村中より御運上山ニ御願申上御運上年々相納

裏山同様ニ相成申候

一橋熊山壺ヶ所

是者村方井堰芝打場ニ仕来リ申候

一中野山壺ヶ所

是者持主より御運上相納裏山ニ准シ申候

一専一山壺ヶ所是者御留山御林ニ御座候

一袋山合テ五ヶ所

是者文久三亥年三ヶ壺ヶ所御運上山ニ御願申上御運上年々相納

裏山同様ニ相成申候

一孫作山壺ヶ所

是者文久三亥年村中御運上山ニ御願申上御運上銀年々相納

裏山同様ニ相成申候

一櫻木并松木裏山壺ヶ所

是者小前々々より御運上相納來リ申候御事

一孫作山壺ヶ所

是者文久三亥年村中御運上山ニ御願申上御運上年々相納

裏山同様ニ相成申候

一麻生山薪伐取場所庄屋許江相尋候得共山地所不相分杯申之

御運上者年々相納村方迷惑ニ相成候事

一東谷山伐取遠方ニテ當時不罷越年々御運上斗リ相納村方迷

惑ニ相成申候御事

一原口山右同様遠方ニ付切取ニ者不罷越御運上銀斗リ相納迷惑

惑ニ相成申候御事

一高並山は又遠方之儀ニ付不罷越御運上銀者年々相納迷惑ニ

相成申候御事

一香下山長谷山年々御運上相納伐リ來申候

一山袋山年々御運上相納伐リ來申候

一赤尾山馬草場運上無之先年より伐リ來申候御事

一今成山木ノ内山御運上無之伐リ來候得共只今ニ而者為切

一早田山壺ヶ所

是者先年より裏山ニ御運上小前より相納來申候

一臺山壺ヶ所

不申候更ニ御座候

一醫者老人御座候

一大工職三人御座候

一樋屋細工式人御座候

一質屋壱軒御座候

一商人八人御座候

一下駄細工之者四人御座候

一貨綿打三人御座候

一鋸掛細工式人御座候

一当村六四日市村江式拾式丁宇佐町江壱里廿丁中須賀湊江式
里布津部浦江壱里拾五丁中津町江四里小倉湊江拾七里御座
候

右之通田畠高反別并村中諸色吟味巨細書付差上申候処相違
無御座候、依之村役人印形仕奉書上候以上

豊前国宇佐郡

元重村百姓惣代

同断

幸平

組頭

健蔵

(印)

惣右衛門

勝右衛門

(印)

明治二年三月

五〇

庄屋 市郎右衛門 同断
大庄屋 新五兵衛 元右衛門 後見
元右衛門 ㊞ ㊞ ㊞

四日市

御役所

一今般字内
變革二付

王政復古御一新之折柄當御知行所小笠原加賀守様御政事日
田縣ヨリ民政支配之段被 仰渡御布令書者勿論総テ御取箇
向迄御取調此村鑑帳村役人中立會ノ上相認メ四日市御役所
江書上申候一冊者村方江写控置候如件

元重村庄屋

明治二巳年三月日

川谷彦三郎

鎮春

花押